

2002年度第3回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2002年(平成14年)7月3日(水) 15:30～16:40

場所：L-911

出席者：計 84名

欠席者：計 27名

配布資料(事前配布)：

- 1 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) グローバル・スタディーズ研究科の設立
- 2 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 言語科学研究科の設立
- 3 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 効率的かつ機能的な運営組織の再構築
- 4 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 赤羽男子学生宿泊施設計画の基本構想

配布資料(当日配布)：

- 1 2002年度第1回 長期計画企画拡大会議 議事記録
- 2 企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書

会議資料(プロジェクタ投影)：

- 1 専門部会各検討専門委員会の企画書案(中間報告)

議 事

議事進行に先立って、高祖理事長から、以下の説明があった。

- 6月に行う予定であった第2回(通算第10回)会議は延期ではなく休会とした。そのため、今回は第3回(通算第11回)となる。
- 各検討専門委員会から上程される「最終報告」とは、委員会としてそれぞれの事柄について検討したものを最終的にまとめたのであって、最終決定となったものではないことをご理解いただきたい。

1. 専門部会各検討専門委員会の進捗について

専門部会各検討専門委員会における検討事項のうち、理念や具体的なポイント等をまとめることができた計画について、企画書案(中間報告)として発表した。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会(報告：委員長・笠島学术交流担当副学長)

(a)「ヒューマンケアサイエンスセンター(仮称)構想」

スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

2. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における様々な企画案の検討を踏まえて、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

(a)「グローバル・スタディーズ研究科の設立」

- 学事部学務課・渡邊課員(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

- Q. この企画について、関係する専攻内で話し合われたことはない。特に、改組後の案に国際関係論が無くなっていることは非常に重大な問題である。
国際関係論専攻は志願者が多く、収容定員以上の大学院生が在籍し、多くの優秀な人材も輩出している。また、学部でも国際関係論の関係の授業は非常に人気がある。
この企画書に書かれている内容は、既存の組織でも十分に対応可能ではないか。しかも、インター・ディシプリナリ(学際性)を謳っているが、これでは後退しているとも考えられる。
グローバル・スタディーズは、通常、環境、情報、経済、金融が中心とされており、社会のニーズも大きい。政治学はあまりニーズがないし、人材が供給過多になっている。もっと社会のニーズを見るべきである。
独立大学院は、既存の大学院はそのままに、新しく作るべきものである。この企画では大学院の弱体化につながるのではないか。
志願者が減少しているわけでもないのに、既存の専攻をつぶして新しいものを作ることには慎重であるべきだし、十分な検討の時間を設けるべきである。
- A. 最終報告案は、理事長からの説明があったように、最終決定ではない。今後も十分に議論する時間と場所を設けるつもりである。

(b)「言語科学研究科の設立」

- 学事部学務課・渡邊課員(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

- Q. 言語科学も、先ほどのグローバル・スタディーズとも独立大学院を想定しているが、学部教育など足元を確かなものにしないと、大学は立ち行かず、倒れてしまうのではないか。
- Q. 現在の言語学専攻も問題を抱えている。対応する学部学科がなく、教員は外国語学部の各学科に所属しながら教えている。教員採用の方針とその所属を明確にする必要がある。
- Q. 最終報告書にある、教員の「出向」の意味を明確にしていきたい。出向というのは、完全に移ってしまうことであり、現在のように、学科に所属しながら教えに行くというのとは根本的に異なる。
- Q. 学部への影響はないと報告書にあるが、実は甚大な影響があると言わざるを得ない。
- Q. グローバル・スタディーズ研究科とも合わせて、なぜ外国語学研究科を解体する必要があるのか。むしろ、他大学に進学する学生が増えてしまうのではないか。また、独立大学院で成功している大学は少なく、学部教育との一貫性が重要なのではないか。レベルの低下を招く恐れもあるだろう。
- Q. 中間報告にあったヒューマンケアサイエンスセンターと言語科学研究科の両方に重なる話題として、「言語障害」の件がある。これは、アカデミック・プラン等検討専門第2委員会が十分に調整して検討をしてほしい。また、大学院と学部の間、あるいは、大学院の中での人材の調整なども十分に考えてほしい。これは要望事項としてお願いする。

- Q. アカデミック・プラン等検討専門第1委員会(検討対象: 学部教育)において、最終報告を学部との関係から検討し、意見をまとめることとしたい。
- A. 学部・大学院の教員人事については問題を抱えており、今後検討を重ねていく。また、学部と大学院の関係についても、グローバル・スタディーズ、言語科学とも合わせて、包括的に検討を進める予定である。

(2)フィジカル・プラン等検討専門第1委員会

(a)「効率的かつ機能的な運営組織の再構築」

- 図書館・佐藤 情報サービス課長(フィジカル・プラン等検討専門第1委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。

(3)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

(a)「赤羽男子学生宿泊施設計画の基本構想」

- 施設部施設管理課・櫛間課長補佐(フィジカル・プラン等検討専門第2委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。

〈質疑応答〉

- Q. 南側の斜面に向いているところは地面よりも下になる部屋ができてしまい、住環境があまりよくないので、設計に工夫が必要ではないか。また、交換留学生にも対応した施設であるとなっているが、交換留学生のために教員やカウンセラーなどの支援体制が必要である。
- A. 建物の設計は今後進めていくことになるが、住環境面を十分にについても考慮していきたい。また、留学生にも配慮した宿泊施設とするため、支援のあり方についても十分に検討し、対応していきたい。

最終報告書の審議のあと、事務局から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2002年7月12日(金)までに事務局(長期計画企画室)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

3. 新ホフマン計画について

高祖理事長から、以下の報告があった。

(1)予備調査会について

- (a) 前回の会議で、予備調査会の設立について報告したが、そのうち、アジア人材養成研究センターと法科大学院に関して、理事長宛てに答申が提出された。

(2)アジア人材養成研究センターについて

- (a) 2002年4月10日に予備調査会に対し諮問した。諮問事項の概要は以下の通りである。

- － カンボジアと日本の両国に係る問題について
- － 現地参加者の継続的な確保について
- － 本学構成員以外の参加者とその処遇について

- (b) 2002年5月28日に、理事長宛てに答申。

(c) 2002年7月1日付でアジア人材養成研究センター設置委員会を設置した。

- 委員会では、設置に係るアクションプランの策定を行う。
 - － センター規程
 - － 記念事業(式典、シンポジウムなど)
 - － センターの運営方法
- 委員会の構成は以下の通りである。
 - － 委員長：学長(学務担当理事)
 - － 副委員長：学术交流担当副学長
 - － 主査委員：石澤 外国語学部教授
 - － 委員：総務担当理事、アジア文化研究所長、地域研究専攻主任、学事部長、総務部長、施設部長、人事部長、財務部長、長期計画企画室長
 - － 事務局：長期計画企画室
- アドバイザーとして、今川幸雄元カンボジア大使にご意見を伺ったところ、このようなセンターを設立することに対して期待するところが大きいとのことであった。

(3)法科大学院について

(a) 2002年4月10日に予備調査会に対し諮問した。諮問事項の概要は以下の通りである。

- － 本学の教育の使命と法科大学院との関係について
- － 他大学の法科大学院との優越性
- － 法科大学院の運営面(人事、授業料、施設・設備、等)について

(b) 2002年6月12日に、理事長宛てに答申。

(c) 2002年7月1日付で法科大学院設置準備委員会を設置した。

- 法科大学院設置基準は、当初予想していた今年6月になってもいまだ決定に至らず検討の段階にあるが、設置基準が決定するのを待っているのでは対応が遅れてしまうので、設置準備委員会を設置して、申請の準備を進めることとした。
- 委員会の構成は以下の通りである。
 - － 委員長：法学部長
 - － 副委員長：学术交流担当副学長
 - － 委員：総務担当理事、法学部長が指名する教員、学事部長、総務部長、施設部長、人事部長、財務部長、総合調整室長
 - － 事務局：総合調整室

(4)A地区建造物について

基本設計の概要を、2002年7月の上智大学通信に掲載する予定である。

4. 次回会議について

前回の会議で、今後の会議予定をお知らせした。

2002年9月25日(水)に長期計画企画拡大会議を開催する予定であったが、学部教授会や学院の会議と重なるため、十分な審議時間がとれないことが予想される。そのため、日程を変更し、2002年9月24日(火) 午後3時30分から、L-921で行うこととする。

以上